

幼稚園教育実習指導における指導案作成に向けた チェックシートの開発と活用

真下 知子、狩野 理恵子、河口 智津子、小林 君江

幼稚園教育実習指導において、指導案の作成指導は重要な内容の一つである。筆者らは教育実習総論における指導案作成指導において、基本的な事項を学生自身が作成時に確認できるチェックシートの開発と活用を行った。本稿ではチェックシートの構成や活用方法を紹介するとともに、学生を対象としたアンケート調査の結果より、今後の改善点について考察した。

キーワード：保育者養成、幼稚園教育実習、指導案、チェックシート

1. はじめに

幼稚園教育実習指導において、指導案の作成指導は重要な内容の一つである。子どもの発達を援助していくためには、一日の保育を通して達成したいねらいを意識し、ねらいを達成するための遊び（活動）の見通しを立てることが求められる。そして、その活動に適した環境構成、教材の準備、活動に応じた適切な支援を考えるために指導案の作成が不可欠である。

そのため、保育者養成校では、各領域の指導法をはじめとする授業や教育実習の事前指導等において作成指導が行われているが、学生にとって指導案の作成は容易ではなく、指導においては様々な課題がある。また、学生自身も指導案の作成に困難感を有していることが報告されている（宮里、2017；井上・町井、2019）。

特に入学後、まだ実習経験のない学生にとって、幼児の実態をとらえ、その時々の子どもの育ちや興味に即してねらいや内容を設定することは難しく（田中・安東、2015）、これについては、指導に最も時間を要する。しかし、実習経験を経てもなかなか改善されず、繰り返し指摘される問題点も少なからずある。

菜原・小林（2017）が学生 135 名を対象に行った「幼稚園教育実習・保育所保育実習指導案に関する調査アンケート」で実習中の指導案作成において指導を受けた内容として、以下の内容が報告されている。

- ・誤字脱字について（86%）
- ・文章表現に関する内容について（76%）
- ・子どもの様子の書き方について（68%）
- ・環境構成の書き方について（20%）
- ・記述の際のポイントのしほり方について（18%）
- ・保育者の援助活動について（43%）
- ・ねらいについて（38%）

このように、ねらいや保育者の援助など保育の深い理解に関わる内容もあるが、文章表現や書き方など、形式や体裁に関する点も多く指摘されていることがわかる。そこで筆者らは、指導案作成指導において、まず、必要事項を漏れなく書く、適切な表現を使うといった基本的な事項を学生自身が作成時に確認できるチェックシートの開発と活用を行った。本稿ではチェックシートの構成や活用方法を紹介するとともに、学生を対象としたアンケート調査の結果よ

り、今後の改善点について考察した。

2. チェックシート開発の経緯

本学では入学後、1年生の10月に保育実習Ⅰ（施設）を経験した後、2月に初めての幼稚園教育実習に臨むことになる。1年生後期に開講される「教育実習総論Ⅰ」が指導案作成の最初の指導を行う科目となる。本学では現場経験の豊富な教員を中心に、幼稚園での生活や保育の展開について具体的なエピソードを元に作成指導を行っている。しかし、まだ実習経験のない学生にとって、ねらいや内容の理解はもとより、登園から降園までの幼稚園の一日の流れを把握し、子どもの活動を想像したり、保育者の意図を考えたりしながら記述することは容易ではない。近年では保育者をめざす入学生の多様化に伴い、基本的な事項の記入や文章表現についても指導がさらに必要となっている。

教育実習総論Ⅰでは、指導計画の作成指導を無理なく、徐々に書き方の理解を深められるよう段階的に行っている。第1段階ではA4用紙に「登園～好きな遊び」までの部分指導案、第2段階ではA3用紙に「登園～主活動」までの半日指導案（主活動は指定された内容）、そして第3段階では全日指導案（主活動は自分で考えた内容）の作成を行う。また、その各段階において、「講義」→「個人での作成」→「学生同士の相互フィードバック」という流れで進められている。特に最終段階の全日指導案については、学生同士でグループでの模擬保育を行い、意見交換の後、修正を加える。その後、教員による添削とフィードバックを行っている。

記述する内容は徐々に多くなるが、対象となる子どもの年齢、日付、ねらい、時刻、環境構成、予想される幼児の活動、保育者の援助という基本的な記述事項は共通しており、回を重ね

るごとに必要事項が適切に盛りこまれていくことが期待される。しかし、実際には、複数回の演習の後でも必要不可欠な項目の記入漏れや体裁の不備等、ごく基本的な内容を繰り返し指導する必要性に担当者が悩むことが多かった。発達段階を踏まえたねらいや内容の設定、教材や保育の展開など本質的な内容に関する指導に時間をかけるためにも、まずは、この様な小さな問題点を解決する必要性が担当者間で共有された。そこで第2、第3筆者を中心に学生自身が基本的な事項をセルフチェックするためのチェックシートの開発を2018年より行い、2019年～2021年に、これを活用した指導案作成指導を実施している。

3. チェックシートの内容と種類

(1) チェックシートの構成

チェックシートは、指導案を作成する際、順に確認すべき事柄をリストアップしている。行見出しには通し番号を付け、同じ分類となる記述事項は共通の番号の下に下位番号を付けるという形で整理されている。

例えば基本事項の記入については「1」の категорияであり、「1-1. 学籍番号と氏名の記入はできているか」、「1-2. 月日・曜日、天気の入りができているか」、「1-3. 配属クラス名と年齢、園児数の記入ができているか」という3つの項目がある。同様に、活動のねらいと内容については「2」の categoriaであり、「2-1. 本日の活動の記入ができているか」、「2-2. 活動に沿ったねらいを記入したか」、「2-3. ねらいはこの子どもの中に育ってほしい力となっているか」等5つの項目で構成されている。

そして、各項目について優劣の4段階が設定されており、「1. 当てはまらない」～「4. 当てはまる」の中から自己評価により該当する番号

を選択する（資料1参照）。

(2) チェックシートの種類と作成指導

チェックシートは半日指導案用、全日指導案用、設定保育指導案用の3パターンがあり、必要に応じて選択できるようにしている。項目数はシートによって異なり、設定保育指導案用が37項目、半日指導案用が42項目、全日指導案用が66項目となっている。段階に応じて項目数は多くなるが、授業では、それまでに学習した内容とチェックリストの内容が結びつくよう、様々な事例を交えながら解説し、指導案作成を進めていく。例えば項目18の「導入は幼児の興味や意欲を高める内容になっているか」（資料1参照）については、以前の授業で学習した「導入とは子どもがその遊びをしたくなるようなきっかけを作ること」という定義を確認し、子どもの心が動いてこそ遊びが楽しくなること、させるのではなく、子どもが主体的に遊べるようなムードを作ることの大切さを再度学生に伝えながら、指導案にどのように記入すると良いかを考える機会を与えている。時間を要する指導方法であるが、チェックシートの文言に振り回されることなく、各項目が示す意味を深く理解した上で有効に活用することを目指している。

4. 学生を対象としたチェックシートの活用に関するアンケート

チェックシートは、開発当初から数回の試行を経て項目を精査し、2020年度に現在の版となった。チェックシートの使い易さや有効性、今後の改善点を明確にするため、このシートを用いて1年生後期、2年生前期に指導案作成指導を受けた本学2年生を対象に、アンケート調査を行った。

(1) 対象

幼児教育学科2年生、123名（教育実習総論Ⅰ・Ⅱを受講済み、大多数が幼稚園教育実習Ⅰ・Ⅱを終了）

(2) 実施時期・方法

①実施時期：2021年10月

②実施方法：

保育・教職実践演習（幼稚園）の授業でチェックシートの見本とQRコードを配布し、Googleフォームのアンケートに回答するよう依頼した。

③倫理的配慮：

倫理的配慮として以下の内容について確認の上、同意した場合にのみ質問に回答するよう依頼した。

- ・アンケートの目的は、指導案作成チェックシートの改善であること。
- ・アンケートへの回答は自由であり、アンケートに一旦回答した場合でも、不利益を受けることなく回答を撤回することができること。
- ・回答にあたり、氏名、メールアドレス等の個人情報収集されず、データは個人が特定されないように処理されること。
- ・回答を望ましい、望ましくないなどの基準で評価することはないこと。
- ・調査に関する内容は、学会発表・論文・報告書などに限り、公開される場合があること。

(3) 質問内容

質問1：指導案作成時のチェックシート使用頻度

質問2：チェックシートの使い易さ（4件法）

質問3：質問2での否定的回答の理由

（自由記述）

質問4：質問2での肯定的回答の理由

（自由記述）

質問5：指導案作成時のチェックシートの有効性
(4件法)

質問6：質問5での否定的回答の理由
(自由記述)

質問7：質問5での肯定的回答の理由
(自由記述)

質問8：チェックシートに関する要望
(自由記述)

(4) 結果・考察

アンケートの回答者数は80名(回答率65%)であった。選択肢による回答(質問1、2、5)については単純集計を行い、自由記述による回答(質問3、4、6、7、8)はKJ法による分類を行った。結果を以下に報告する。

①指導案作成時のチェックシート使用頻度

「指導案を作成する際、どのくらいチェックシートを使用しましたか。」に関する回答を表1に示す。

表1 チェックシート使用頻度

頻度	回答数	%
提出時のみ使用	53	66%
提出時以外にも時々使用	26	33%
提出時以外にも毎回使用	1	1%
全体	80	100%

チェックシートは、授業で指導案を作成する際に配布し、完成した指導案とともに提出するよう求めていた。提出時のみにチェックシートを使用した学生が過半数ではあるが、提出を求められない場合にも時々使用したという回答が33%、毎回使用したという回答が1%あった。これらの学生は、授業での評価に関係なく使用したと考えられ、チェックシートの必要性や有用性を感じていると考えられる。

②チェックシートの使い易さ(4件法)

「チェックシートは使いやすかったですか。」に関する回答を表2に示す。

表2 チェックシートの使い易さ

	回答数	%
1 そう思わない	4	5%
2 あまりそう思わない	7	9%
3 ややそう思う	53	66%
4 そう思う	16	20%
全体	80	100%

「そう思わない」「あまりそう思わない」という否定的回答が14%であったのに対して、「ややそう思う」「そう思う」という肯定的回答が86%であったことから、回答者の多くがチェックシートを使いやすいと感じていることがうかがえる。

③質問2での否定的回答の理由(自由記述)

(質問2で「そう思わない」「あまりそう思わない」と答えた人は、その理由を具体的に書いて下さい。)

回答数は9件であり、「項目数が多い」(3件)、「指導案との対応がわかりにくい」(2件)、「必要を感じない」(2件)、「見るのが面倒・大変」(2件)の記述があった。

チェックシートの項目数は、設定保育用、半日指導案用、一日指導案用とチェックシートの種類によって異なるが、一番項目数が少ないものでも37項目あり、多くの点について確認が必要となることが、学生の負担となっている可能性がある。また、チェックシートの行見出しが通し番号となっていることから、項目の内容と指導案の該当箇所との対応を把握するのに時間を要する学生もいると考えられる。

④質問2での肯定的回答の理由（自由記述）

（質問2で「ややそう思う」「そう思う」と答えた人は、その理由を具体的に書いて下さい。）

回答数は64件であった。記述内容は「記入・確認事項がわかりやすい」「項目がわかりやすい」「順を追って確認できる」「不足・改善点がある」「その他」の5つに分類できた。各分類に該当する記述数と例を以下に示す。

1) 記入・確認事項がわかりやすい（27件）

- ・確認すべき項目やポイントがわかりやすかった。
- ・どこに着目して確認すべきかわかりやすかった。
- ・書かなければならないことがわかった。

2) 不足・改善点がある（12件）

- ・チェックシートで確認すると書き忘れに気付くことができた。
- ・自分が出来ているところ、改善すべきところが明確になった。

3) 項目がわかりやすい（12件）

- ・確認すべきところが項目で分けられていて、わかりやすかった。
- ・項目が簡潔で見やすかった。

4) 順を追って確認できる（7件）

- ・一日の流れ通りになっており、順に沿って確認することができた。
- ・確認すべきことが順番に書かれていて、わかりやすかった。

5) その他（6件）

- ・チェックシートがある方がより具体的な指導案が書ける。
- ・指導案が上手になる。

記述内容より、1)、3)、4)のように、作成途中に記述すべき内容や確認事項がわかるという点と2)のように、作成後に指導案を客観的に振り返り、不足点や改善点が明確化されるという

利点があることが示されている。

⑤指導案作成時のチェックシートの有効性（4件法）

「指導案を作成する際、チェックシートは役立ちましたか。」に関する回答を表3に示す。

表3 チェックシートの有効性

	回答数	%
1 そう思わない	9	11%
2 あまりそう思わない	8	10%
3 ややそう思う	42	53%
4 そう思う	21	26%
全体	80	100%

指導案作成時にチェックシートが役立ったかどうかについて、否定的回答が20%強であるのに対して、80%近い学生が肯定的な回答をしており、有効性を感じている学生が多いことがわかる。

⑥質問5での否定的回答の理由（自由記述）

（質問5で「そう思わない」「あまりそう思わない」と答えた人は、その理由を具体的に書いて下さい。）

回答数は11件であり、「使用していない・あまり使用していない」（9件）、「使いにくい」（1件）、「必要ない」（1件）という記述があった。

一部の学生はチェックシートを使用せずに指導案を作成していたと考えられる。指導案とともにチェックシートの提出が求められている場合でも項目を確認せずに○を付け、提出している学生がいる可能性も否定できない。

⑦質問5での肯定的回答の理由（自由記述）

（質問5で「ややそう思う」「そう思う」と答えた人は、その理由を具体的に書いて下さい。）

回答数は62件であった。記述内容は、「記入・確認事項がわかる」「不足・改善点がある」「振

り返ることができる」「その他」の4つに分類できた。各分類に該当する記述数と例を以下に示す。

- 1) 「記入・確認事項がわかる」(28件)
 - ・必要事項を漏らさず書くことができた。
 - ・全ての項目にチェック事項があり、わかりやすかった。
 - ・書くべきポイントがわかりやすかった。
- 2) 「不足・改善点がわかる」(18件)
 - ・書くべき内容や書き忘れていたことに気付くことができた。
 - ・書く→チェックする、を繰り返すことで抜けなく書くことが出来るから。
 - ・自分が苦手な部分があるのでミスが減る。
- 3) 「振り返ることができる」(3件)
 - ・シートを見て見直しができる。
- 4) その他(13件)
 - ・チェックシートに沿って書くと見やすい指導案になる。
 - ・正確に書くことができる。
 - ・わかりやすい。

多くの学生がチェックシートを活用することで、必要事項を漏れなく書くことができる、間違いや不足点にいち早く気付き改善ができる、という点において評価していると考えられる。

⑧チェックシートをより使いやすく、役立てやすくするための要望(自由記述)

(チェックシートをより使いやすく、役立てやすくするために、要望があれば自由に書いて下さい。)

回答数は10件であり、「項目別にしてほしい」(2件)、「項目を少なくしてほしい」(2件)、「優劣の段階は不要である」(2件)、その他(4件)の記述があった。記述数は少なかったが、例えば「項目別にしてほしい」に該当するものには、「番号でグループ分けをするのではなく、[ねら

い]、[環境構成]など内容を示す見出しを付けてはどうか」といった具体的な提案があった。

また、「その他」に該当するもので、「言い回しなど具体的な例がほしい」「チェックシートをデータとして配布してほしい」といった要望も参考となる。一方で、「項目数を減らしてほしい」という意見も注目に値する。質問4、7では「項目が具体的でわかりやすい」という肯定的な意見が多数見られたが、3や6では「面倒・大変」という意見や「使用していない」「使いにくい」という否定的意見も見られた。項目数が多いことで作業の負担が大きくなる可能性を鑑み、必要な内容を含めながらも、より簡潔な項目や整理の仕方を検討する必要性が示唆された。

5. おわりに

本稿では、幼稚園教育実習に向けた指導案作成指導において活用してきた指導案チェックシートについて、学生によるアンケート調査結果より、その使い易さや有効性、今後の改善点について考察した。

チェックシートの活用前と比較して、作成された指導案の完成度が高まり、記入漏れがない、丁寧で見やすいといった形式的な点のみならず、記述する内容の質も高まっているというのが授業担当教員間での共通した印象としてあった。今回、学生の回答からも使い易さや有効性について一定の評価が得られたことで、今後も改善を重ね、活用していく意義が確認された。

しかし、チェックシートの性質上、必要な内容が盛り込まれているか否かという有無については確認しやすいが、指導案の記述内容の質について評価するには不十分な点があることも留意すべきである。今回開発したチェックシートには、内容の善し悪しについても意識できるように4段階で優劣を記入する形式をとっているが、

どのような記述が、各段階に値するのかといった具体的な指標までは盛り込まれていない。例として、保育者の援助に関する項目 20（資料 1 参照）を例に挙げると、20-5「幼児の困り感に沿った援助を記入できているか」という質問では、どのような具体的な記述があれば、優れているのか、について学生自身が評価することは難しいと考えられる。この問題点を解決するためには、優劣の 4 段階それぞれに具体的な指標を設けたルーブリックが必要となるであろう。宮田・奥村（2018）は目的に応じてチェックリストとルーブリックを使い分ける必要性を指摘している。記述すべき要素や特性の有無を評価する項目についてはチェックシートを用い、指導計画の根幹となるようなねらいと内容、援助といった内容については、ルーブリックを使用するという

方法が最も有効であると思われる。今後も授業実践を通して検討を重ね、学生が使用しやすく、役立てやすい方法を見出していきたい。

引用文献

- 井上清子・町井富子（2019）、幼稚園実習中のストレスとストレスコーピングについて、文教大学教育学部紀要、52、25-33.
- 菜原桂子・小林美花（2017）、幼稚園教育実習・保育所実習における指導案の現状と課題、北翔大学短期大学部研究紀要、55、139-145.
- 宮里新之介（2017）、児童教育を専攻する短期大学生の実習における困難感の調査研究：保育士との比較を通して、鹿児島女子短期大学紀要、52、145-152.
- 宮田佳緒里・奥村好美（2018）、ルーブリックとチェックリストによる評価結果の関連性の検討－効果的な使いわけのために－、兵庫教育大学研究紀要、52、117-125.
- 田中敏明・安東綾子（2015）、保育指導案の形式と内容に関する考察－保育指導案の統一の必要性－、九州女子大学紀要、52、117-130.

<資料1> **設定保育指導案の作成におけるチェックシート**
(2 回生)

項目をチェックしながら記入しましょう。
 1 当てはまらない
 2 あまり当てはまらない
 3 おおむね当てはまる
 4 当てはまる

番号	学 籍 番 号	名 前	項 目	劣	優
1-1			学籍番号と名前の記入ができていますか	1	2-3-4
1-2			月日・曜日、天気の入力ができていますか	1	2-3-4
1-3			配属クラス名と年齢、園児数の記入ができていますか	1	2-3-4
2-1			本日の活動の入力ができていますか	1	2-3-4
2-2			活動に沿ったねらいを記入したか	1	2-3-4
2-3			ねらいは、この日子どもの中に育ってほしい力となっているか	1	2-3-4
2-4			内容の記入をしたか	1	2-3-4
2-5			内容は、活動を羅列していないか	1	2-3-4
15			時間・環境構成・幼児の活動・留意点等をずれずに記入したか	1	2-3-4
16-1			主活動の開始時間を記入したか	1	2-3-4
16-2			主活動の準備物や配置図などを環境構成の欄に記入したか	1	2-3-4
17			主活動の導入について予測される幼児の活動の欄に記入したか	1	2-3-4
18			導入は幼児の興味や意欲を高める内容になっているか	1	2-3-4
19-1			予想される活動の流れを具体的に記入したか	1	2-3-4
19-2			幼児の活動の展開は、誰が見てもわかるように記入しているか	1	2-3-4
19-3			制作などの場合、手順を図で示しているか。完成図はあるか	1	2-3-4
20-1			予想される幼児の活動に沿った援助や配慮を記入したか	1	2-3-4
20-2			「～させる」「～してあげる」「してもらう」等の言葉を使っていないか	1	2-3-4
20-3			「声かけをする」「見守る」など援助や配慮と同じ言葉を繰り返し使っていないか	1	2-3-4
20-4			認める・共感するなど幼児が意欲をもてるような援助を記入したか	1	2-3-4
20-5			幼児の困り感に沿った援助を記入できているか	1	2-3-4
20-6			興味を示さない幼児への配慮を記入できているか	1	2-3-4
20-7			ねらいを達成できるような援助を記入しているか	1	2-3-4
20-8			幼児の活動と援助・配慮がずれずに記入できているか	1	2-3-4
20-9			援助の中に「手伝う」「遊ぶ」など、保育者の行動を記入していないか	1	2-3-4
21-1			主活動の締めくくりの時間を記入したか	1	2-3-4
21-2			主活動の締めくくりについて幼児の姿を記入したか	1	2-3-4
22			活動の後始末に必要なモノを環境構成の欄に記入したか	1	2-3-4
23			活動の片付けにおいて幼児の姿を具体的に記入したか	1	2-3-4
24			活動の片付けにおける援助や配慮を考慮記入したか	1	2-3-4
30			完成した指導案の全体の見直しを行ったか	1	2-3-4
31			文字の大きさやバランスを考えて丁寧に書いたか	1	2-3-4
32			教科書48ページを参考にして書き言葉で記入できたか	1	2-3-4
33			誤字・脱字はないか	1	2-3-4
34			5W1Hを使うように心がけたか	1	2-3-4
35			作成した指導案のコピーをとって1枚につなぎ合わせたか	1	2-3-4
36			指導案に沿って模擬保育(シミュレーション)を行ったか	1	2-3-4